

シリーズ「50年後の国土への戦略」

## 風景の再生のために、国土の片付けを



佐々木葉  
論説委員  
早稲田大学 教授

「こんまりの人生がときめく片付けの魔法」というのがある。片付けコンサルタントの近藤麻理恵（こんまり）さんのメソッド。実際に本を読んだ訳ではないが、ラジオで話を聞いたことがある。「手に持ったとき、ときめかないものは捨てる!」、とか。いつか着るかもしれない服、あると便利かもしれないもの、もらったからとってあるもの。そういった捨てられないものの扱いを判断する基準が、「ときめき」とは!しかし、「ときめき」とは何?最近、いつ、何に「ときめき」ました?

50年後の国土への戦略。そう問われてふっと浮かんだのは、「あとかたづけ」という言葉であった。あまりに感性的な話で申し訳ないが、まちを歩いて目に入るものほとんどすべてがこの50年以内にできたものだろう。あるいは田園地域でも耕作地の区画や栽培されている作物は、50年前と大幅に変わり、色々なものが混じっている。そういった日常の風景に、私たちはなかなかときめきを感じられない。便利に、安全に、効率よくと少しずつ、時にどかんと環境を変えてきたこの50年。しかしそれは、あってもよいが無くてはならない訳ではないものをも増やし、その所有と維持のために大切なスペースと時間と労力が奪われる状態を作り出した、とはいえないか。そして、これらを作り出してきた人びとは、それが無かった状態の環境で生まれ、育ち、少なくとも記憶している。だから加算的な価値の増加を認識できる。しかし今の子どもたちやこれから生まれ、50年後の国土を担う人びとは、今のこの状態が国土の出発点であり、原風景となる。

汚いものを取り除け、というのでは全くない。こんまりさんのように部屋をホテルのようにきれいにしたいのではない。日本という国土の類希な地形、気候、生態系、その上で暮らしてきた人びとの知恵と感性。それが今一度日常の風景として見えるようにすること。それにとときめきを感じるチャンスを準備すること。そういったことに私は尽力したい。「何にとときめく?」。「新型 iPhone!」。あるいは「日経平均!」。そういう答えばかりが返ってくるようではまずいと思うからである。

そのための戦略はなにか。まずは、長いスパンでこの国土の特質を再認識するための議論を丁寧に行うこと。例えば、東日本大震災以降注目を浴びた赤坂憲雄氏によ

る「東北学」。都(みやこ)は文明文化の中心でそこから離れた東北地方は素朴で未開発な地域という、一つの尺度で国土を見ることが如何に狭い考え方であったかを教えてくれた。あるいは桑子敏雄先生による「西行の風景」から、中世という疲弊した時代に確立された日本文化のアイデンティティ。西行は日本各地の空間体験によって立ちあらわれる心(それはある種のときめきではないか)を和歌に詠むことで、渡来の思想であり文明でもあった仏教と日本の神、そして風土を融合する道を拓いたという。それは、環境と人間を二項対立的にとらえる近代的まなざしによる解釈を疑い、グローバルとユニバーサルを区別し、ローカルに根ざした国土観という示唆を与えてくれる。こういった日本を対象とした刺激的な論に導かれながら、国土というものへの認識を、国民国家や領土といったきわめて歴史の浅い枠組みからはなれて問いなおす議論を、まず若い人たちとしていきたい。それは、今日の前にある風景の見方、写真には写らない風景への想像力を育むために必要なプロセスである。

次いで、景観や風景に施策として取り組む際の目的と対象の視野を広げること。2004年に景観法が成立し、各地で景観への取り組みが進んでいる。また富士山を始めとして世界遺産登録というイベントは、地域の景観向上の活動を活性化させる。しかしこれらは往々にしてすばらしいものの保全や、価値ある場所の阻害要因の除去に偏りがちである。一方2000年に欧州会議が規定した欧州風景条約(European Landscape Convention)では、変化しつづける日常の生活の場の風景の不可逆な変質と劣化が、多様な地域個性と健全な社会の崩壊を招くという点に強い関心を寄せている。無関心が招く風景の劣化は、社会への悪影響を招き、その再生には高い社会的コストがかかり、また欧州が目標とする持続可能な開発が達成できない。そういった切実な課題意識から、風景の保護、マネジメント、再生の必要性があるとしている。日本でもこうした観点からの議論がもっと必要である。

戦略とはとても言えないが、50年後の国土にむけて私に考えられるのはこういったことである。思考実験としても現実の取り組みとしても、よく本質が見えない状態に至ってしまった現状のあとかたづけがまず必要ではなか、と。がれきや放射線廃棄物といった困難なものを片付ける技術を有した土木において、より高次元国土の片付けの議論ができれば幸いである。

赤坂憲雄「東西/南北考—いくつもの日本へ」岩波新書、2000  
桑子敏雄「西行の風景」NHKブックス、1999